

“京都を彩る建物や庭園” 選定一覧

	行政区	選定名称	推薦理由（抜粋）	選定番号
1	北	岩戸落葉神社 いわとおちばじんじや	北区小野郷の神社。岩戸社と落葉社のふたつの本殿が祀られており、本殿の背後には巨大な岩がある。岩戸社は、小野上村の氏神で、近世に現在の地に遷されたと伝わる。落葉社は、小野下村の氏神で、源氏物語に登場する「落葉の宮」を祭神としているとも伝わる。境内には4本のイチョウの大木が立ち、紅葉が美しい。	第8-001号
2	北	植松家 うえまつけ	加茂街道の近くに建つ近代和風住宅。主屋、洋館、蔵などが建つが、道路からは高塀に隠されている。庭は桜や楓などが植えられ、主屋や洋館などから眺めることができる。随筆家 岡部伊都子が暮らし、執筆活動を行った住宅である。	第8-002号
3	北	旧森菅家 きゅうもりすがけ	北区中川地区に建つ住宅。このあたりは明治の大火で全焼し、その後に建てられている。主屋のほかに、磨き丸太を加工し乾燥させ保管する倉庫が建つ。敷地内には丸太を磨くための「イケ」と呼ばれる水槽も現存している。北山杉の里の暮らしを伝える建物である。	第8-003号
4	北	日下部式部家 くさかべしきぶけ	北区小野郷の北山型民家で、明和9年（1772）に建てられた。小野郷は、古来より天皇家の御料地で、日下部家は、供御人（くごにん）として、御所警備や林産物を献上する役目を担っており、室内には、献上品を整えるための金物や、饗応のための丸炉（がんろ）等などがある。	第8-004号
5	北	福田家 ふくだけ	北区小山に建つ近代洋風住宅。敷地は角地にあり、煉瓦の門や塀、赤い屋根瓦、クリーム色の外壁が目を引き、両開きの窓やアーチ窓、半円アーチ玄関ポーチ廻りの凝った模様などの意匠が特徴。区画整理事業により生まれた近代京都の新しい町に建つ近代洋風住宅である。	第8-005号
6	北	藤井家 ふじいけ	北大路堀川の近くに建つ住宅で、昭和7年（1932）に建てられた。東棟と西棟がつながっているが、外観は1棟に見える。何度か増築しているが、間取りに大きな改変はなく、東棟西棟の1階2階それぞれに座敷がある。庭は石組で高低差をつけ、多様な植栽が植えられている。	第8-006号

	行政区	選定名称	推薦理由（抜粋）	選定番号
7	上京	上七軒 長谷川家 かみしちけんはせがわけ	上七軒のお茶屋として建てられた建物。近年はお茶屋としては使われず、お茶会や落語会に使用されている。離れの座敷は広く、奥には茶室と土蔵があり、裏庭にはお火焚きさんの祠がある。 2階は踊場を囲むように北、東、南に座敷があり、どの座敷からも踊りが楽しめる。	第8-007号
8	上京	筈井家 はずいけ	安土桃山時代の絵師 海北友松（かいほうゆうしょう）とその嫡子である海北友雪（かいほうゆうせつ）ゆかりの町家。江戸時代から明治時代まで、京都の禁裏で御用を務める絵師の家として存続した。 この町家は明治時代に建てられ、海北家の末裔によって建築当時の姿をとどめたまま維持継承されてきた。	第8-008号
9	左京	上田恒次家 うえだつねじけ	陶芸家の上田恒次が設計した自邸。昭和12年（1937）に陶房を建て、昭和17年（1942）ごろ住居部分を増築。豪壮な意匠は丹波地方の民家を参考にしたと伝わる。登り窯は主屋と同時期に築かれ、現在も残っている。民藝運動の場となった陶芸家の製作と生活の空間が今に伝わる稀有な空間である。	第8-009号
10	左京	小川家 おがわけ	左京区鹿ヶ谷に建つ2階建ての近代洋風住宅。大正11年（1922）に建てられた。設計は武田五一。わが国の鉄筋コンクリート造住宅のさきがけである。 武田五一が設計した数少ない現存する住宅として貴重である。	第8-010号
11	左京	小川家別邸 おがわけべってい	小川為次郎の妻 小川むらが、為次郎の死後、ひとりで住むために建てられた木造平屋の住宅。 息子小川睦之介（ちかのすけ）が住む鹿ヶ谷に近い白川の地に昭和9年（1934）に建てられた。設計は藤井厚二、大工は北村伝兵衛など、小川むらが一流の人を集めた。	第8-011号
12	左京	旧喜多家 きゅうきたけ	工業化学の研究者で京都帝国大学教授の喜多源逸のために藤井厚二が設計した住宅。当時、藤井は京都帝国大学で建築を教えていた。大正15年（1926）、藤井の第4回実験住宅の竣工後に設計された。外観は、屋根、軒、庇がリズムカルな表情を造っている。室内は明るすぎず、落ち着いた雰囲気である。	第8-012号

	行政区	選定名称	推薦理由（抜粋）	選定番号
13	左京	旧建部歯科医院 きゅうたけべしかいいん	昭和28年（1953）に建てられた増田友也設計による鉄筋コンクリート造の診療所兼住宅。 増田友也初期の設計で、小規模ながらモダニズムの合理性と増田の感性が融合しており、竣工当時の形態が良く保存されている。	第8-013号
14	左京	ケルガード家 けるがーどけ	左京区花背原地町に大型林業家の住まいとして明治37年（1904）に建てられた。 杉や桧を多用しており、建築当初の姿がよく保存されている。現在は外国人向けの宿泊施設として活用されている。北部山間地域の大型林業家の様相を伝える貴重な建物である。	第8-014号
15	左京	早川家 はやかわけ	昭和7年（1932）に建てられた木造2階建ての住宅。 土壁、しっくい壁、木製建具、畳など、自然素材の集合体で、心身ともに元気で穏やかに過ごすことができ、静かな感動を味わうことができる。京都の気候風土にあったすばらしい住環境である。	第8-015号
16	左京	松田家 まつだけ	彫刻家 松田尚之のアトリエ兼自邸。松田自身が設計し、昭和11年（1936）に建てられた。 天井の高いアトリエは、死の2週間前まで弟子とともに厳しい研鑽を重ねた場で、現在も往時の雰囲気を残し、音楽ホールやピアノ教室の場として活用されている。	第8-016号
17	中京	家邊徳時計店 やべとくとけいてん	三条通に建つ店舗。家邊徳時計店は時計貴金属商として明治4年（1871）に創業され、煉瓦造2階建ての店舗部分は明治23年（1890）に建てられた。店舗の奥には住居棟が建つ。 3連アーチが外観の特徴で、現在はテナントが入り活用されている。	第8-017号
18	東山	弓箭閣 きゅうせんかく	昭和初期に町会所として建てられた町家。蔵と町内の社があり、弓矢町が管理している。弓矢町は八坂神社の氏子として中世から祇園祭の行列に参加していた由緒ある町で、近年まで武具甲冑姿で武者行列を行っていた。現在は、武具甲冑、古文書、古写真などの貴重な記録も保管している。	第8-018号

	行政区	選定名称	推薦理由（抜粋）	選定番号
19	東山	半兵衛麩本店 はんべえふほんてん	元禄2年（1689）創業の麩屋。町家と洋館が並んで建ち、京町家は築130年ほど、洋館は築70年ほどである。 町家は1階を展示室とお食事処、2階を事務室としている。洋館は1階を店舗、2階をお弁当箱博物館の展示室としている。 伝統文化の継承と発信を目的とした活動も行っている。	第8-019号
20	下京	柴田家 しばたけ	万寿寺通間之町の南西角に建つ町家。茶道具商を営んでいたため、設えは茶道や作陶を嗜む歴代の主人の洗練された趣味を色濃く反映しており、受け継がれている生活文化も貴重である。万寿寺通に残された数少ない大型町家として大切に受け継いでいただきたい。	第8-020号
21	下京	東華菜館本店 とうかさいかんほんてん	昭和元年（1926）に建てられた北京料理店。設計は米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ。 四条大橋西詰に建つ洋館で、ランドマークとして親しまれている。タコ、ホタテ貝、巻貝などをモチーフとした装飾が見事で、日本最古のエレベーターも貴重である。	第8-021号
22	南	綾戸國中神社 あやとくくなかじんじゃ	久世橋の西に位置する神社。本殿は昭和11年（1936）に再建されたもので、綾戸（あやと）宮と國中（くなか）宮の二社が祀られている。國中宮は、祇園社と同じ素戔嗚尊（すさのおのみこと）を祀り、御魂の片割れとなっているため、久世駒形稚児が祇園祭の神輿を先導するという重要な役割を担っている。	第8-022号
23	南	六孫王神社 ろくそんのおうじんじゃ	東寺の北に位置する神社。源経基が祀られており、彼が遺した「死後も龍神となって子孫繁栄を祈る」という言葉から、池は神龍池（しんりゅういけ）と名付けられ、手水舎には龍があしらわれている。琵琶湖の竹生島から弁財天を勧請し、息子の源満仲誕生の折に産湯をつかわせたといういわれを持つ誕生水弁天社がある。	第8-023号
24	西京	大原野神社 おおはらのじんじゃ	京都盆地を望む丘陵地にある神社。周辺には里山が広がり神社のバッファゾーンを形成している。綺麗に整備された竹林もあり、竹穂垣が美しい小道が整備されている。 神社の境内は殿上人が遊んだ昔をしのぶことができる。	第8-024号

	行政区	選定名称	推薦理由（抜粋）	選定番号
25	伏見	金札宮 きんさつぐう	<p>伏見区総合庁舎の近くにある伏見区で最古の神社のひとつ。天太玉命（あめのふとだまのみこと）、天照大神（あまてらすおおみかみ）、倉稲魂神（うがのみたまのみこと）が祀られている。</p> <p>現在の社殿は嘉永元年（1848）に建てられた。</p>	第8-025号